

2016年7月15日(金) ハコラク8月号 掲載

ドクターコラム『まだまだ働く、まだまだ遊ぶ ～人工関節という選択肢～』

整形外科 笹沢 史生 人工関節センター長

Doctor Column 1
整形外科

まだまだ働く、 まだまだ遊ぶ ～人工関節という選択肢～

函館中央病院
整形外科

笹沢 史生

人工関節センター長



【略歴】

平成16年、信州大学医学部卒業。長野県立厚生連佐久総合病院、北海道大学病院、市立釧路総合病院、北海道大学病院勤務を経て、平成26年に北海道大学大学院を卒業。同年より函館中央病院に勤務し、平成28年、人工関節センター長に就任。日本整形外科学会専門医、認定脊椎髄痛医、日本体育協会公認スポーツドクター。

「膝の軟骨がすり減っています」と言われたことはありませんか？今このページをお読みいただいている読者ご自身はもちろん、ご両親が整形外科にかかってこのように告げられてくることも多いかと思えます。関節の軟骨のすり減りは「変形性関節症」という疾患であり、中高年の男女の膝や股関節といった、体重を支える関節に多く発生します。これらの関節の痛みで整形外科を受診し、レントゲンで診断されることも多いのですが、まだ痛みのない「予備軍」も含めると日本国内の患者数は2500万人以上とも推定されており、もはや

誰にとっても他人事ではありません。問題は「一度すり減った軟骨は治らない」ということです。まずは予防が大切ですが、残念ながら病状が進み、骨が変形してきて痛みが強くなってしまった場合には、人工関節手術が痛みを取り除く有力な手段となり、その効果はとても強力です。既にこの道南地域でも、多くの患者さんが膝や股関節の人工関節手術を受けていますので、お近くにも経験者がいらっしゃるのではないかと思います。

私が診察室でよく聞くお話に「膝が痛くて昆布を運べない」とか「股関節が痛いので友人との旅行を諦めた」といったものがあります。変形性関節症の痛みのせいで働けない、遊びに行けないというのは、患者さん個人にとっても、また社会にとっても大きな損失です。確かに入院や手術は大変ですが、約1カ月の入院で済むことが多く、それによって痛みなく歩けるようになり働くことも遊ぶこともできるのであれば、頑張る価値はあるのではないのでしょうか。まだまだ働く、まだまだ遊ぶために、人工関節という選択肢があります。「もう年だから」と諦めず、お気軽にお近くの整形外科でご相談ください。お一人お一人の元気が、道南に元気をもたらします！



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyo.com/>

■診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科
整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科
産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全22科目

■受付時間／8:30～11:30、13:30～16:00

※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。

■休日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)